

陳情 1 第17号



市のプロジェクトとして「#藤キュン課」を発足することについての陳情

【陳情項目】

市政に若者の意見を反映させることで藤沢市をより一層活性化させるために、市のプロジェクトとして「#藤キュン課」を発足するよう、市に働きかけてください。

【陳情理由】

<「#藤キュン課」の目的>

- 若者ならではの感性に基づくアイデアを活用し、市政に反映させていくことで、藤沢市をさらに活性化させる方法を提案する。
- 「#藤キュン課」を通して中高生が市政に意見を反映させる機会を設けることで、市内の中高生の政治参加意識を醸成するための場とする。

<想定される活動内容>

- 地域の活性化を目指して、次のような活動を「#藤キュン課」が主導となって行う。
 - ・市内のシャッター街対策として、シャッターアートを作製し、周知することで集客を目指す。
 - ・藤沢城南に多くあるおしゃれ地蔵を「映え」スポット化し、周知する。
 - ・若者が参加したくなる自治会を目指した方策を企画、運営することで、若者と高齢者のつながりを生み出す。
- SNSを活用して活動内容について定期的に情報発信を行う。
- その他の事業内容、体制・運営方法などについては、藤沢市青少年問題協議会やNPO団体「湘南まちいくプロジェクト」など、関係する組織や団体から適宜助言を受ける。

<「#藤キュン課」のモデルケース>

○福井県鯖江市や滋賀県湖南市における「JK課」

- ・高校生が市政や町おこしに参加する場として設置されている。
- ・活動内容は、地元高校生によるスマホアプリの開発やスイーツ商品企画、新聞、雑誌への寄稿や地域連携ゼミ、県外に出向いた講演会など、地元企業、団体と連携して、年間20以上の企画が実現している。

○岐阜県可児市における「kanisuki 若者プロジェクト」

- ・単に若者の希望や要望を聞く機会を設けるのではなく、現在様々な課題に対して実施している事業に直接参加し、市の目指すまちづくりを共に実現できるよう取り組んでいくことを目指している。
- ・地域特有の戦国、安土桃山時代からの歴史を生かし、高校生と共同で観光ガイドブックやSNS写真映えスポットを作成している。

<既存の組織との比較>

	#藤キュン課	湘南まちいくプロジェクト
組織	市内の中高生により構成された市のプロジェクト	大学生・院生や若手社会人などによるNPO団体
内容	常設の部署として若者の視点から市の課題に取り組む	中高生が市の課題解決に取り組む「こみゅーす」の実施
課題	<ul style="list-style-type: none"> ・構成員となる中高生の確保が学校の負担につながる。 ・予算をどのように編成するか。 →既存の組織との連携を充実させることで対応することを想定している。	<ul style="list-style-type: none"> ・様々な活動を精力的にしているものの、構成員がボランティアのため、限界があるという指摘がある。 ・行政連携が終了したため、継続した事業には至っていないという指摘がある。



藤沢市議会議員
加藤 一 様

令和元年 11月 26日
 藤沢市円行 1986 番地
 神奈川県立湘南台高等学校
 ソーシャルデザイン履修者 11名
 提出代表 校長 佐野 朗

